

「住民投票」で大阪市存続を！

昨日 10 月 31 日、朝早く大阪市立大に行き、午後は住民投票に向けた活動にすこし参加した。まず地下鉄「動物園前」駅に立ち寄った。ここで介護に従事する人が街頭宣伝すると、フェイスブックで知ったからだ。熱心に話されていたので、声をかけなかったが、この方の熱心な活動にはいつも感心している。右端に見えるスピーカーから、大阪市廃止反対の音声が遠くまで流れていた。



そのあと「西長堀」で市民団体の皆さんとチラシを配り、「南森町」駅に向った。写真の大阪市残す！学者研究者有志の会の街頭宣伝に参加した。車上で話すのは、立命館大の森裕之さん。じつに熱のこもった演説であり、長い商店街の方まで声が響きわたった。私も車上ではないが、すこしだけ大阪市廃止反対をアピールした。なんだか疲れてしまったが、自宅近くでポスティングして帰宅した。



さて、今日 11 月 1 日は大阪市廃止・特別区設置住民投票である。写真のポスターは「大阪・市民交流会」発行であり、大阪市が消滅する！住民投票で「反対」票を呼びかけている。書きたいことは多いが、ここでは今日の『大阪日日新聞』「潮騒」を紹介しておきたい。

今日は「大阪都構想」の住民投票の日だ。賛成多数なら、2025 年 1 月に政令市として初めて大阪市の廃止、「北」「淀川」「中央」「天王寺」という 4 特別区に分割され、広域行政は府が担うことになる◆元に戻す法律はなく、やり直しはきかない。賛否は拮抗しており、あなたの 1 票は大阪の将来を決める可能性を持つ、とても重要な 1 票だ◆今年 1 月 1 日の弊紙の紙面で「正確な判断材料が提供されることを前提に、自分の暮らす地域を良くするために熟慮して投票することが、将来世代に対する有権者の責任となる」と書いた◆残念ながら、その前提条件は満たされたとは言い難い。コロナ禍の中で、市が開いた説明会の回数は前回住民投票から激減し、内容についてもメリットに偏っているという声が多く聞かれた。医療や介護、教育の関係者、経済的ダメージを受けた人など、難しい制度問題について考えたり、話し合ったりする余裕がなかった人たちも多い◆それでも、あなたの 1 票は子どもや孫に残す大阪の形を決める大事な 1 票だ。「最後に決めるのは住民の皆さま」という言葉は、選択の責任は住民にあるという意味でもある。ぜひ、投票に行ってほしい。あなたの大切な人の顔を思い浮かべながら。



(2020 年 11 月 1 日)